

第86回 簿記実務検定第2級試験問題

商業簿記

(制限時間 1時間30分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
割賦売掛金	未収金	仮払法人税等	備品
備品減価償却累計額	支払手形	買掛金	未払法人税等
未払配当金	利益準備金	別途積立金	繰越利益剰余金
売上	固定資産売却益	仕入	通信費
手形売却損	社債利息	固定資産売却損	法人税等
支店	本店		

- a. 埼玉商店に商品 ¥864,000 を24か月の均等分割払いで売り渡していたが、本日、最終回の割賦金 ¥36,000 を現金で受け取った。
- b. 神奈川商事株式会社（決算年/回）は、決算にあたり、当期の法人税・住民税及び事業税の合計額 ¥1,578,000 を計上した。ただし、中間申告のさい ¥750,000 を納付しており、仮払法人税等勘定で処理している。
- c. 千葉商店は、取得原価 ¥900,000 の備品を ¥230,000 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、この備品に対する減価償却累計額は ¥600,000 であり、これまでの減価償却高は間接法で記帳している。
- d. 茨城商店の本店は、通信費 ¥18,000 を現金で支払った。ただし、このうち ¥6,000 は支店の負担分である。（本店の仕訳）
- e. 香川物産株式会社（発行済株式数 3,400株）は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。ただし、繰越利益剰余金勘定の貸方残高は ¥2,875,000 である。
 利益準備金 ¥170,000 配当金 1株につき ¥500 別途積立金 ¥260,000
- f. 愛媛産業株式会社は、次の条件で発行している社債について、半年分の利息を小切手を振り出して支払った。
発行条件 額面総額 ¥30,000,000 払込金額 額面 ¥100 につき ¥98.20
 償還期限 9年 利 率 年1.9% 利 払 い 年2回
- g. 群馬商店から注文のあった商品 ¥1,800,000 を発送し、代金の70%については、取引銀行で荷為替を取り組み、割引料を差し引かれた手取金 ¥1,254,000 は当座預金とした。なお、残額は掛けとした。

2

- 次の取引を特殊仕訳帳としての当座預金出納帳と売上帳に記入し、総勘定元帳と売掛金元帳に転記しなさい。
- ただし、i 総勘定元帳への転記は、特殊仕訳帳から直接おこなうこと。
- ii 特殊仕訳帳は、月末に締め切るものとする。
- iii すでに記入してある取引も転記すること。
- iv 総勘定元帳と売掛金元帳の記入は、日付と金額を示せばよい。
- v ほかに特殊仕訳帳として、現金出納帳と仕入帳を用いている。

取引

／月／9日 足立商店に次の商品を売り渡し、代金は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金とした。

B 品 400個 @¥500 ¥200,000

22日 目黒商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

C 品 500個 @¥750 ¥375,000

24日 目黒商店に売り渡した上記商品のうちに品違いがあったので、次のとおり返品された。

C 品 20個 @¥750 ¥15,000

29日 新宿商店あてに振り出していた約束手形 ¥190,000 が、本日、支払期日となり当座預金口座から支払われたとの連絡を取引銀行から受けた。

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 徳島商店（個人企業）における本店・支店の損益計算書と本支店合併後の損益計算書および資料によって、次の金額を計算しなさい。

a. 本店損益計算書の広告料（アの金額）

b. 本支店合併後の売上原価

c. 資本金勘定の次期繰越高

本店 損益計算書

平成○年／月／日から平成○年／2月31日まで

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	()	売上高	6,025,000
仕入高	3,632,000	期末商品棚卸高	345,000
売上総利益	()		
	()		()
給料	()	売上総利益	()
広告料	(ア)	受取手数料	150,000
減価償却費	220,000		
雑費	53,000		
当期純利益	760,000		
	()		()

支店 損益計算書

平成○年／月／日から平成○年／2月31日まで

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	307,000	売上高	()
仕入高	2,050,000	期末商品棚卸高	324,000
売上総利益	()		
	()		()
給料	624,000	売上総利益	()
広告料	120,000	受取手数料	()
減価償却費	160,000		
雑費	()		
当期純利益	346,000		
	()		()

資料

- i 本店から支店に発送した商品 ¥70,000（原価）がまだ支店に到着しておらず、支店側では未処理である。

- ii 本店における決算整理前の元帳勘定残高（一部）
- 資本金 ¥7,780,000
- 引出金 281,000

〔本支店合併後の損益計算書〕

損益計算書

徳島商店 平成○年／月／日から平成○年／2月31日まで

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	635,000	売上高	()
仕入高	()	期末商品棚卸高	()
売上総利益	()		
	()		()
給料	1,920,000	売上総利益	()
広告料	()	受取手数料	256,000
減価償却費	()		
雑費	76,000		
当期純利益	()		
	()		()

(2) 四国商店では伝票制を採用し、仕入・売上の各取引については、代金の決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法で起票している。よって、

a. 5月/日の略式の伝票を集計したさいの仕訳集計表の(ア)と(イ)に入る金額を計算しなさい。

ただし、下記の取引について、必要な伝票に記入したうえで計算すること。

b. 下記の伝票から、買掛金元帳に転記後の仕入先高知商店に対する買掛金の残高を計算しなさい。

取 引

5月 /日 松山商店から商品 ¥180,000 を仕入れ、代金のうち ¥100,000 は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。

入金伝票	
受取手数料	4,000
売掛金(阿南商店)	160,000
前受金	60,000
() ()	

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
買掛金(高知商店)	200,000	支払手形	200,000
当座預金	150,000	売掛金(土佐商店)	150,000
前受金	70,000	売掛金(今治商店)	70,000
() ()		() ()	

出金伝票	
消耗品費	23,000
買掛金(高知商店)	25,000
発送費	8,000
() ()	

売上传票	
土佐商店	450,000
西条商店(値引)	14,000
今治商店	370,000
() ()	

仕入伝票	
高知商店	325,000
鳴門商店(返品)	39,000
丸亀商店	240,000
() ()	

仕訳集計表

平成〇年5月/日

借方	元	勘定科目	元	貸方
		現金		
		当座預金		
		売掛金		(ア)
		支払手形		
		買掛金		
		前受金		
		売上		
		受取手数料		
		仕入		
		発送費		
		消耗品費		
(イ)				(イ)

買掛金元帳

高知商店

2

5/1 前月繰越 402,000

(3) 熊谷商店(決算年/回 /2月3/日)の決算日における次の受取地代勘定の(①)に入る勘定科目と(②)に入る金額を記入しなさい。ただし、地代は、毎年同じ金額を4月末と10月末に翌月以降の6か月分として受け取っている。

受取地代

12/31 (①) ()	1/1 前受地代 240,000
〃 損益 (②) ()	4/30 当座預金 ()
	10/31 当座預金 ()
()	()

4

栃木商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳勘定残高と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 総勘定元帳の損益勘定に必要な記入をおこないなさい。
- (2) 貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 829,000	当座預金	¥ 2,357,000	受取手形	¥ 1,600,000
売掛金	1,900,000	貸倒引当金	9,000	有価証券	1,820,000
繰越商品	1,240,000	備品	3,750,000	備品減価償却累計額	1,875,000
支払手形	971,000	買掛金	1,156,000	借入金	1,500,000
資本金	7,000,000	売上	16,905,000	受取手数料	123,000
固定資産売却益	67,000	仕入	12,480,000	給料	2,142,000
発送費	345,000	支払家賃	756,000	保険料	228,000
消耗品費	94,000	雑費	45,000	支払利息	20,000

付記事項

- ① 得意先宇都宮商店に商品を売り渡し、当店負担の発送費 ¥16,000 を現金で支払ったさい、誤って次のように仕訳をしていたので修正する。

(借) 雑費 16,000 (貸) 現金 16,000

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥1,520,000
- b. 貸倒見積高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ/%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 定額法による。ただし、残存価額は零(0) 耐用年数は6年とする。
- d. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有している次の株式であり、時価によって評価する。
日光商事株式会社 35株 時価 /株 ¥55,000
- e. 消耗品未使用高 ¥ 9,000
- f. 保険料前払高 保険料のうち ¥180,000 は、本年4月/日からの/年分を支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- g. 利息未払高 ¥ 10,000

第86回 簿記実務検定 2級 商業簿記 [答案用紙]

1	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	-----

試験場校	受験番号

[illegible]

帳 上 売

2

[illegible]

総 勘 定 元 帳

現 金		1	当 座 預 金		2
1/1 前期繰越	182,000		1/1 前期繰越	490,000	
売 掛 金		4	支 払 手 形		11
1/1 前期繰越	970,000		1/1 前期繰越	310,000	
買 掛 金		12	売 上		17
	1/1 前期繰越	820,000			

売 掛 金 元 帳

品 川 商 店		1	目 黒 商 店		2
1/1 前月繰越	260,000		1/1 前月繰越	240,000	
大 田 商 店		3			
1/1 前月繰越	170,000				

3

- (1)
- | | | | |
|---|-------------------------------|---|------------------------|
| a | 本店損益計算書の
広告料 (アの金額) $\yen$ | b | 本支店合併後の
売上原価 $\yen$ |
| c | 資本金勘定の
次期繰越高 $\yen$ | | |
- (2)
- | | | | | |
|---|---|--------|---|--------|
| a | ア | $\yen$ | イ | $\yen$ |
| b | | $\yen$ | | |
- (3)
- | | | | |
|---|--|---|--------|
| ① | | ② | $\yen$ |
|---|--|---|--------|

2

得点

3

得点

4

(1)

総勘定元帳

損 益

31

12/31	仕	入	12/31	売	上
〃	給	料	〃	受	取
〃	発	送	〃	手	数
〃	(	)	〃	料	
〃	(	)	〃	(	)
〃	支	払	〃	固	定
〃	保	險	〃	資	産
〃	消	耗	〃	売	却
〃	雑	費	〃	益	
〃	支	払			
〃	(	)			

(2)

貸借対照表

栃木商店

平成〇年/2月3/日

(単位：円)

資 産	金 額	負 債 お よ び 純 資 産	金 額
現 金		支 払 手 形	
当 座 預 金		買 掛 金	
受 取 手 形 ()		借 入 金	
貸 倒 引 当 金 ()		()	
売 掛 金 ()		資 本 金	
貸 倒 引 当 金 ()		()	
有 価 証 券			
商 品			
()			
()			
備 品 ()			
減価償却累計額 ()			

4

得点

1	借 方		貸 方	
a	現 金	36,000	割賦売掛金	36,000
b	法 人 税 等	1,578,000	仮払法人税等 未払法人税等	750,000 828,000
c	備品減価償却累計額 未 収 金 固定資産売却損	600,000 230,000 70,000	備 品	900,000
d	通 信 費 支 店	12,000 6,000	現 金	18,000
e	繰越利益剰余金	2,130,000	利 益 準 備 金 未 払 配 当 金 別 途 積 立 金	170,000 1,700,000 260,000
f	社 債 利 息	285,000	当 座 預 金	285,000
g	当 座 預 金 手 形 売 却 損 売 掛 金	1,254,000 6,000 540,000	売 上	1,800,000

2 当 座 預 金 出 納 帳									
平成 〇年	勘定科目	摘要	平 〇年	売 掛 金	諸 口	平 〇年	買 掛 金	諸 口	平 〇年
		前ページから		450,000	260,000		480,000	140,000	
/ 12	売 掛 金	大田商店 売3		90,000	/ 15 現 金	引き出し	✓	120,000	
19	売 上	足立商店 ✓			200,000	29 支払手形	約手支払い	11	190,000
				540,000	460,000		480,000	450,000	
31		売 掛 金 4			540,000	31	買 掛 金 12	480,000	
"		当座預金 2			1,000,000	"	当座預金 2	930,000	
		前月繰越 ✓			490,000		次月繰越 ✓	560,000	
					1,490,000			1,490,000	

2 売 上 帳									
平成 〇年	勘定科目	摘要	平 〇年	売 掛 金	諸 口	平 〇年	買 掛 金	諸 口	平 〇年
/ 16	現 金	品川商店 現金	✓		694,000		352,000		
	売 掛 金	掛 け	売1		140,000		100,000		
		A 品 300個 @ ¥800							
19	当座預金	足立商店 小切手	✓				200,000		
		B 品 400個 @ ¥500							
22	売 掛 金	目黒商店 掛 け	売2		375,000				
		C 品 500個 @ ¥750							
24	売 掛 金	目黒商店 掛け返品	売2		15,000				
		C 品 20個 @ ¥750							
					1,209,000		652,000		
31		売 掛 金 4	4				1,209,000		
"		総売上高	17				1,861,000		
"		売上返品高	17/4				15,000		
		純売上高					1,846,000		

総勘定元帳			
現 金		当座預金	
1	2	1	2
1/1 前月繰越	1/1 前月繰越	1/1 前月繰越	1/1 前月繰越
1/82,000	490,000	31	1,000,000
売 掛 金	4	支払手形	11
1/1 前月繰越	1/31	1/29	1/1 前月繰越
970,000	540,000	190,000	370,000
31	1,209,000		
買 掛 金	12	売 上	17
1/31	1/1 前月繰越	1/31	1/31
480,000	820,000	15,000	1,861,000
品川商店			
1	1	2	
1/1 前月繰越	1/1 前月繰越	1/24	15,000
260,000	240,000		
16	140,000	22	375,000
大田商店			
3			
1/1 前月繰越	1/12		90,000
170,000			

3

(1)						
a	本店損益計算書の 広告料 (アの金額)		231,000	b	本支店合併後の 売上原価	5,648,000
c	資本金勘定の 次期繰越高		8,605,000			

(2)				
a	ア	394,000	イ	2,418,000
b	ザ	502,000		

(3)				
①	前受地代	②	720,000	

4

総勘定元帳			
損 益		31	
12/31 仕 入	12,200,000	12/31 売 上	16,905,000
給 料	2,142,000	受 取 手 数 料	123,000
免 送 費	361,000	(有価証券評価益)	106,000
(貸倒引当金繰入)	26,000	固定資産売却益	67,000
(減価償却費)	625,000		
支 払 家 賃	756,000		
保 険 料	183,000		
消 耗 品 費	85,000		
雑 費	29,000		
支 払 利 息	30,000		
(資 本 金)	763,000		
	17,200,000		17,200,000

(貸倒引当金繰入は、貸倒償却でもよい。)

(2) 貸借対照表 平成〇年/2月37日 (単位:円)

資 産	金 額	負 債 お よ び 純 資 産	金 額
現 金	829,000	支 払 手 形	971,000
当 座 預 金	2,357,000	買 掛 金	1,156,000
受 取 手 形 (1,600,000)		借 入 金	1,500,000
貸倒引当金 (16,000)	1,584,000	(未払利息)	10,000
売 掛 金 (1,900,000)		資 本 金	7,000,000
貸倒引当金 (19,000)	1,881,000	(当期純利益)	763,000
有 価 証 券	1,925,000		
商 品	1,520,000		
(消 耗 品)	9,000		
(前払保険料)	45,000		
備 品 (3,750,000)			
減価償却累計額 (2,500,000)	1,250,000		
	11,400,000		11,400,000